

《巻頭言》

6月3日に開催した平成23年度定期社員総会は、各地より大勢の社員団体代表のご出席を得て無事に執り行うことができました。社員の皆さまならびに総会開催にご努力いただいた役員や関係者ならびに職員の皆様に心よりのお礼を申し上げます。いよいよ、本格的な新年度の始まりです。我々の目前には、多くの取り組むべき課題が横たわっています。我々業界の一層の向上に向けて、一つ一つの課題を着実に解決していく、このような問題解決型の執行部を目指し、これからの一年を精一杯努力して参りたいと考えております。会員の皆さま全員の参加を心よりお願い申し上げます。後で振り返ってみていい一年であつたと思えるような年を目指して。

日本ELVリサイクル機構 代表理事 栗山義孝

目次

2011年度重要項目	
企業連携による資源循環促進	1
リサイクル部品の保証・品質基準	1
会員消息	2
被災車両処理実施状況	2
編集後記	2
スクラップ市況最新状況	3
投稿	3
異動	3

ELV機構 2011年度 重要活動項目 企業連携による資源循環の促進について

去る6月3日に開催された平成23年度日本ELVリサイクル機構社員総会において、今期重点活動項目として、広報活動の更なる強化、機構組織の強化など従来からの取り組み事項に加え、新規事業として「企業連携による資源循環の促進」が承認されました。本事業は、昨年度後半に検討が開始されたもので、本年3月に、事業開始のキックオフとしてのセミナー開催が計画されていたところ、東日本大震災が発生し計画が頓挫していたものです。

本事業を開始するに当たり、ELV機構では担当する委員会を発足させました。委員会設置の目的は以下の通りです。

- ◆ 今後、使用済自動車発生の減少は避けられず、仕入れ競争が激化する中、リサイクル業者にとって一台当たりの付加価値を高めることは重要課題である
- ◆ そのため、リユース(部品・用品等)、リサイクル(素材)事業を根本的に見直し、その中から中・長期的展望を描き、方向付けを行う
- ◆ 本委員会は素材リサイクル分野に特化し、情報収集を行い、結果をもとに以下各項目に掲げる活動を通じてELV機構として進むべき方向についての検討を行い、機構会員に広く周知すると共に啓発活動を行う

- ①リサイクル技術の高度化には分別・回収技術の高度化を目指すことが必要であり、回収・保管・分別の実態把握を行う。
- ②希土類、希少金属類等の資源確保に対する国の施策や自動車メーカーの考え方を詳しく把握し、我々自動車リサイクル業者としての方向性を検討し提言する
- ③次世代自動車ではベースメタルについても新素材に置き換わる可能性があることから、それらの資源リサイクルについても研究を進める
- ④次世代自動車に不可欠なリチウムイオン電池、強力磁石類等の部品群の取り扱い、回収等に関する情報の収集、会員への周知を図る

これら活動を実施するに際し、必要な基本情報として以下項目につき情報収集する：

- * 実際に自動車に使用されている希土類、希少金属類
- * それらの回収が可能か、回収できリサイクルは可能か
- * リサイクルを可能とする前提条件は？量、コスト
- * 同業者以外で連携すべき業種、企業は如何なるものか □

リサイクル部品の保証基準と品質基準共通化

～リ協の検討結果公表される～

去る4月15日、一般社団法人 日本自動車リサイクル部品協議会(以下、リ協)は、リサイクル部品の利用普及と「補償基準」「品質基準」の共通化と題する16頁の小冊子を公表しました。

これまで中古部品流通業界では、ユーザーのニーズにこたえるため、在庫の共通化を進めてきましたが、同時に商品の保証についても、それぞれの流通ネットワークで取り入れてきました。

おりしも、産構審と中環審の合同専門委員会は、自動車リサイクル法施行5年経過時の節目に制度の施行状況の評価・検討を行ってきましたが、平成22年1月に公表した報告書において、リユース部品の利用促進の観点から、現在、各ネットワーク毎に異なる品質・保証基準を可能な限り共通化し、それら部品を比較・評価しやすい環境を作ることがユーザーの利便性を高め、利用促進に繋がると指摘しています。

これを受けて、リ協では「リユース部品の品質・保証基準の共通化」を平成22～23年度重点事業として取り組み、小冊子にまとめて公表するに至りました。リ協の清水代表理事(ELV機構理事)によりますと、今回発表の共通化は、まだ完成に至っていないが、「補修用リユース部品全部品」の保証基準、ならびに「主要機能部品(エンジン・ミッションなど9品目)の品質検討基準(品質見極めの手法)」の統一化を図ったものであり、今後更に主要部品以外の

部品の品質検討基準の完成に向けての検討も進めるとのこと。

また、リ協永澤常務理事・事務局長は、今回の品質・保証基準共通化のポイントとして以下の三点があげています。

- ① 全てのリユース部品が補償対象
- ② 順守すべき「統一基準」の採用
- ③ 品質チェック項目の開示

なお、本件に関するお問い合わせは以下にお願いします。

一般社団法人 日本自動車リサイクル部品協議会

電話 03-5472-4182

Fax 03-5472-4183

(担当:永澤事務局長)



《会員情報》

去る7月2日(土)、東京自動車リサイクル協議会は第4回定期総会を江戸川区船堀で催しました。午後4時30分、有原総務部会長の開会宣言に続き、金子会長(三協自動車(株))の挨拶があり、総会が開会された。総会は、会員数70社中30社が出席、委任状提出31社の合計61社を数え、総会の成立が確認された。また、総会議長に



は、森脇副会長が選出され、滞りなく議事が進行し、中村副会長(有安全自工)の挨拶で総会が無事終了した。総会終了後講演会が行われ、日本ELVリサイクル機構栗山代表理事より「東日本大震災支援活動について」と題する活動報告、また、(株)日刊市況通信社 三上取締役東京支社長兼東京編集長より「素材市況の動向について」と題する講演がおこなわれた。

17:30より同タワーホール2階「桃源」に場所を移し、19:00までの間、懇親会が和やかに行われた。懇親会では、先月末まで自再協理事・業務部長を務められた本田技研工業(株)リサイクル推進室技幹 山根保夫様より来賓の挨拶があり、異動報告ならびに新任の須藤幸自再協理事・業務部長の紹介があった。 ■ (報告:機構事務局 奥野)

《被災車両処理実施状況》

東日本大震災関係、被災車両処理現地対策本部から、4月3日(月)現在の作業実績につき報告がありましたのでお知らせします。

1. 現在の支援協力企業

- ・MTK(宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合)、
- ・(株)エスピー商会
- ・(株)大晃商事
- ・(株)飛田テック

なお、今週は、新車モータープールより、630台前後の撤去移動の予定

(参加者・機材)搬送車両13台、フォークリフト4台、
作業員数 約20名

2. Bヤード最新航空写(右上)

先週より、新たに造成を進めていた「Cヤード」(約2,500坪)の約半分が完成し、搬入を開始しております。

3. 累積処理台数(7月1日(金)現在)

撤去台数 累計 5,813台(内、数十台返却済み)

- ・仙台市 4,052台内 Aヤード 550台
Bヤード3,319台
Cヤード 183台
- ・岩沼市 1,761台内 中坪ヤード 約600台



Bヤード(3,319台保管中)の空撮写真

相の釜ヤード約1,000台
二の倉ヤード 約160台

4. 仙台港周辺の民間事業所

蒲生中野・2丁目地区は、7月中旬で概ね完了予定。

なお、農地に流れ込んだ被災車両については、数台着手したが、建設業者様との連携作業が必要な為、現時点で明確な見通しが立っていない。 ■ (現地対策本部千葉氏情報)

～編集後記～

◆ 東日本大震災が東北地方太平洋沿岸を襲ってほぼ4カ月が過ぎようとしている。世間一般からは、もう過去の悲惨な出来事として見られようとしているが、現地の被災者ご自身の身の回りはほとんど良くなってはいないのではないだろうか。編集子は、6月23日、再度被災地を訪れた。確かに道路、田畑にみられた瓦礫はずいぶん減っている。しかし、そこにぼつぼつと残る家屋の残骸は、当時以上に悲壮感がただよい、かつてそこに住んでおられた方々の消息が一層気にかかる。

◆ 新年度事業の一つに、昨年度、震災の余波で流れた「企業連携による資源循環」事業を取り上げることとなった。折も折、日本の大学の研究者が太平洋ハワイ、タヒチ沖公海の海底の泥に陸地の何百倍かのレアアースが含まれていることを発見。公海の海底であれば、技術さえあれば誰でも採取可能とか。技術日本には朗報に聞こえるが、新たな火種となりうるのか、世界規模の資源争奪戦への影響があるのか？

◆ ELV機構の社員団体である北自協(北海道)の名物理事長の南可昭氏が、5月末の通常総会で、前身の札解協時代も含むと20年間にわたる理事長を退任された。情熱的な活動家という言葉がぴったりの南さんをご存じの業界関係者は多いと思う。以前、編集子が南さんにご案内いただき北海道庁を訪ねたことがあるが、道環境部長をノアポで訪ねたのには驚いた。また、景勝の地利尻島に放置自動車が散乱しているのを看過できず、組合員に働きかけて、何人かと島へ渡り、錆びて粉になりそうな車両を回収・処理して同庁などから大変感謝されたとも聞く。巨星が退き、一つの時代の転換期にいることを感じる。

◆ 大阪市の高度浄水処理水を加熱殺菌した上で、ペットボトル(500ml)に詰めたものです。ラベルも一新にピンクのボトルで新たにデビューしました。500ml 一本100円

(大阪市webサイトより)

「処理してある」と言われてもね～(編集子)



6月末の鉄スクラップ動向

全体的には横ばい様子見続く

前月に引き続き、東西での価格差は開いた状態

6月の鉄スクラップ相場は、全体的には横ばい様子見で長らく推移し、前月に引き続き、東西で価格差が開いた状態が続いた。月末にかけては、国内でも特に高かった関西地区で部分的に1,000円程度の値下がりが見られたが、高値修正の側面が強く、メーカーは値下げしたいところではあるものの、関西は依然として全国の中でも最も高い価格水準が続くまま7月入りした。九州・山口の電炉では、東京製鉄の値上げに合わせて1,000円の値上げが見られるなど、岡山以西で続伸の動きとなった。これに対して北海道や新潟、関東などの東日本ではスクラップの需給が緩んだ状態が続く、北日本ではほぼ横ばい、関東地区でも1カ月間で500円程度の上昇にとどまった。

7月～9月の鉄鉱石価格は169ドル(4月～6月171ドル)、原料炭価格は315ドル(同330ドル)で高止まりした。これが市況を支える要因のひとつになっている。また自動車工場などのスクラップが発生する工場の操業停止により新断スクラップなどの不足、さらに建物解体の減少が、足元のスクラップ需給をタイトにしている。

関東地区 南関東では需給引き締まるも、北関東は荷余り感

関東地区では、南関東は発生低調で引き締まっているが、北関東では東北からのスクラップの流入により荷余り感が続く。東北の復旧作業の進展に伴い、月間3万トンの東北玉が北関東へ、1万トンの

新潟へ納入されている状況。関東地区のH2の炉前実勢価格は34,000～35,000円中心、高値35,500～36,000円見当、平均は34,600円。湾岸浜値は、H2が34,500～35,000円中心、新断が40,000～40,500円。

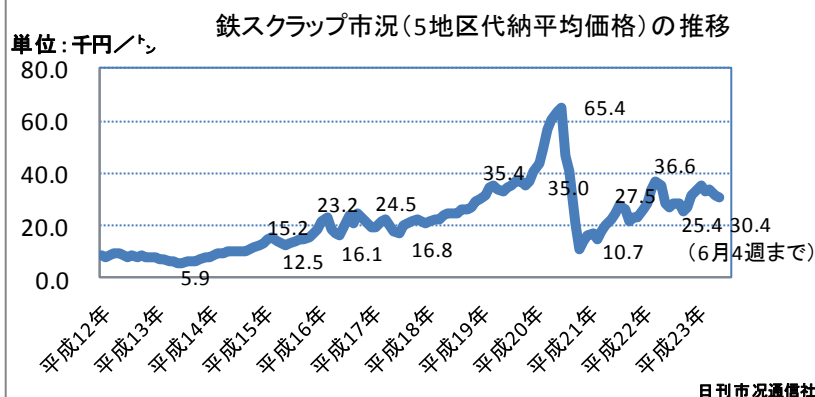
東海地区 域内メーカーの価格変動に乏しく、市況は長い間の横ばい

東海地区では、トピー工業が29日から鉄スクラップの購入価格を500円値上げしたほか、東京製鉄・田原工場が23日と29日にそれぞれ500円ずつ値上げしたが、全体的には5月中旬から様子見が続く、実勢価格は横ばいのまま7月に突入した。H2の実勢価格は36,000～36,500円中心、高値37,000円見当で、先月末から変わっていない。7月上旬まではこのままで推移するという見方が大勢だ。

関西地区 国内では依然最も高い地区、月末にかけて値下がりのメーカーが散見

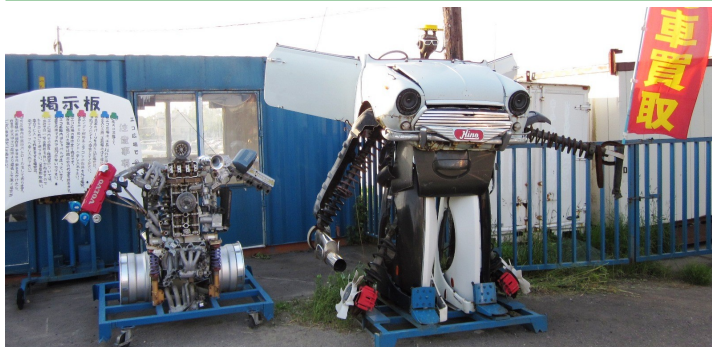
関西地区の鉄スクラップ相場は様子見の状態が続いている。地区によって依然として価格に開きがあり、大阪地区のH2の実勢価格は36,500～37,500円(一部上値38,000円)、姫路地区のH2の実勢価格は35,500～36,000円となっている。製品価格とのバランスもあり、関西のメーカーは値下げしたいところで、月末にかけては1000円値下げを実施するところもあった。しかし東鉄の値上げがあり、保合い様子見の流れとなっている。

(※各地の価格動向は6月30日夕方時点のもの)



6月末(30日)の国内スクラップ市中実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	34,000 ～ 35,000	様子見
	南関東	34,000 ～ 35,000	様子見
名古屋		36,000 ～ 37,000	様子見
関西	大阪	36,500 ～ 38,000	様子見
	姫路	35,500 ～ 36,000	様子見



～投稿～

日本ELVリサイクル機構会員 丸利伊丹車両(株)《北海道》では、スタッフ手作りの親子ロボット(?)が店頭で愛嬌をふりまいており、お店を訪れるお客様の目を楽しませています。ごつい体につぶらな瞳の父親ロボットと、精悍な息子ロボット、小顔が親子の証でしょうか。 ■

《異動》

環境省廃棄物・リサイクル対策部 リサイクル推進室の室長補佐が坂口芳輝氏は7月1日付けで、同部廃棄物対策課へ異動となり、後任に高橋一彰氏が着任した。 ■

《異動》

(4/1着任)

自動車リサイクル促進センター 専務理事 葛西健洋氏

(6/24着任)

自動車再資源化協力機構 代表理事 加藤忠利氏

《編集・発行者》

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 広報チーム

〒105-0004

東京都港区新橋3丁目2番2号 一美ビル

Tel: 03-3519-5181

Fax: 03-3597-5171

E-mail: jaera-office2@clock.ocn.ne.jp